

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
[e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)

謹賀新年



本年もよろしくお願ひ申し上げます。

笑顔溢れる一年とないますように！



【2021年 新春号】

- | | | | |
|-------------------|-------|----------------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇「それぞれ」～自閉症支援センターより～ | P 3 |
| ◇特集くつながり ～第二近況報告～ | P 4・5 | ◇コロナ禍における取り組み | P 6 |
| ◇グループホーム便り | P 7 | ◇後援会のページ | P 8 |

新年のご挨拶

理事長 政野 光廣

新年あけましておめでとうございます。

令和3年の新春を迎え、皆さまには新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと何よりも「コロナ、コロナ」で明け暮れ翻弄されました。風の谷関係者にとりまして、「3密対応!」だけでなく通所や、健康管理体制など支援面で多くの対応を余儀なくされました。仮に施設でのコロナ感染が発生した場合はクラスター対応による施設閉鎖や風評への対応を考えると身震いする恐ろしさを覚えました。幸い今のところコロナへの対応もしっかりと進められ運営されております。ご存知の通り第三波の進行で神奈川県でも大流行になっており、さらに感染が拡大する傾向にあります。情報を先取りし徹底した対応策を考えていきます。

コロナ禍の中で私が感じたことの一つに、ガイドヘルプサービスなどがしっかりと利用者の生活行動として組み込まれているという事実です。マスクが苦手な利用者にとっては電車、バス、タクシーなどが利用できません。またコンビニ使用でも配慮が必要となります。当初はやむなくガイドヘルプサービスなどの活動は全面中止となりました。その為に生活のリズムに変調をきたした利用者もいたとのことです。現在では一人一人に対応したコロナ対策を検討し、ガイドヘルプサービスを手探りしながら開始しています。しかしコロナ禍はこれからが本番です。ワクチン接種などで下火になるまで頑張り続けます。関係者の協力を切にお願い致します。

昨年からの法人の動きでもう一つお話ししたい事があります。それは風の谷役員をメンバーとした【風の谷 将来構想委員会】が活動を開始したことです。昨年12月に委員会の最終報告が理事会にてなされました。この将来構想委員会は風の谷が将来にわたって専門性の高い支援を提供し、自閉症・発達障害のある人が住み慣れた地域で生活することを可能とするためには、利用者にとって必要性の高い支援の充実と、安心して支援を受けることができる支援基盤の強化が必要との共通認識のもとに①職員の労働環境の改善②組織体制の見直し③事業と経営基盤の安定化の検討の大項目を選定しています。そして更に成すべき課題を選定し、現状と方針・方向性についての的確に述べられています。

また、報告書の最後では「多様な福祉サービスが自閉症を伴う利用者一人一人の意向を尊重して総合的に提供されるように創意工夫することにより、自閉症を伴う方々が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会で営むことができるよう支援する」という法人の理念を提示し、この理念の実現には職員一人一人が力を発揮し、やりがいをもって働く中で創意工夫ができるやまびこ工房の構築が不可避であるとしています。本年度はまさにこの風の谷将来構想委員会からの提言を実行に移す年となります。職員全員でこの課題を共有し、出来るもの、時間のかかるもの、今早急に着手すべきものと課題に優先順位を選定して実行していきます。

風の谷の運営は「利用者の一人一人に寄り添ったきめ細かな支援」の充実を推進することにあります。各利用者の支援を確認し合い、利用者満足度の高い法人、施設運営を目指していきます。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

それぞれ

～相模原自閉症支援センターより～

ダウン症のAさんは、週末帰宅型のグループホームを利用されています。そのホームの中では最高齢で、ここ数年の間に少しずつ体の衰えが見られていました。もともと関節に痛みが出やすく、その影響で背中が張ってしまうことが多かったので、定期的に接骨院に通いマッサージを行っていました。ところが、コロナウイルス感染予防のために通院を控えるようになり、大好きだったカラオケにも行けなくなってしまいました。

そのころから徐々に感情が不安定になり、とても人懐っこく笑顔がトレードマークだったAさんが不機嫌に過ごしてばかりになります。そして「怖い、怖い」と、トイレに行くことを嫌がるようになっていきました。間もなく車の乗降が出来なくなり在宅の生活に移行し、通院し精密検査をしてもはっきりした原因がわからず、そのころから歩くことが出来なくなり車椅子の生活になってしまいました。いつも「うまい!」と言いながら楽しみだった食事も手が震え食器がうまく使えなくなっていきます。あれよあれよという間に出来ないことが増え続け、慌てて各方面の力を借りて自宅での支援体制を作りましたが、ご家族も体力の限界で気持ちは暗くなるばかりでした。

しかし、主治医の先生から、ある炎症止めの薬を処方して頂いたことがきっかけで、少しずつですが回復の兆しが見え始めたのです。その後は機能の回復と後退を繰り返しながら、3か月ほどが過ぎた現在、つかまり立ちが出来ようになり、食事と排泄が安定し、週2回は生活介護とグループホームを利用しながら周りの人と笑顔でやり取りできるまでになりました。

これまで自閉症の支援を行ってきた私にとって、この一連のAさんへの高齢者としての支援は新たな経験でした。その中でも特に医療の力と介護技術の意味については、多くのことを感じました。

医療については、訪問看護が定期的に家庭に入り、何かあった時には主治医の先生が訪問診療をしてくださいました。ご家族と共にAさんの体をつぶさに観察して支えてもらったことが、今の生活につながったと思います。これには感謝しかありません。

もう一つの介護技術については、実際に試行錯誤する中で、ちょっとした工夫が大きな結果の違いに繋がることを知りました。例えば、車への移乗一つとっても、そこで抵抗なくスムーズに乗ることができるのと、怖い思いをして大騒ぎしながら乗るのとでは、その後の時間の過ごしや気分には大きな差が出ます。それは、介助者のちょっとした体の使い方や、少しの時間待つことや、一つの指さしを作る差です。Aさんのやる気を大切に、嫌がることを避けながら直接介助する時間を減らすことは、機嫌のよい時間を増やしAさんの気持ちの余裕を生みます。さらにそこから楽しい気持ち、コミュニケーションを取りたいという気持ち、「～したい」というAさん自身の意欲にもつながるはずです。小さくてもそんな支援の積み重ねが、Aさんらしさにつながるのだと思います。

そしてこのことは、自閉症の支援についても共通して言えるのではないのでしょうか。特に感覚に過敏さや特異さを持つような方については、支援者がその特性に気づきそこに支援を入れるかどうかで、結果的にその方の心の状態が大きく変わるはずです。不安や心配事を、小さな支援の積み重ねで取り除くことが、その人らしさを生む土壌となります。そして、もしある行動が一般的にその場にふさわしくないものだったとしても、その人らしく生き生きと生きたら、私たちは笑って見守ることから始められるのではないのでしょうか。

(鹿野)

“つながり”

～第二やまびこ工房の近況報告～

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、様々な活動に配慮が必要となり、新たな過ごし方を模索しているところだと思います。そんな中、第二やまびこ工房は開所して6年目を迎えました。開所時と比べ、利用者も年々増えていき賑やかになると同時に課題も見付き、試行錯誤しながら日々の活動に反映させています。

今回の特集ページでは、そんな日々の生活の一部をご紹介します。

“自閉症＝個別対応”というイメージがありますが、ここでは個別対応の大切さを守りつつ、利用者同士のやり取りの中から生まれる関係性も大切にしています。個別で休めるスペースとは別に、写真のようにパーティションも無く向き合っており、取り組める環境の設定をしています。お互いを意識することで“他者意識”を育むきっかけにもなっています。その事による課題もまだまだありますが、職員が介入せずとも利用者同士の関係性が築かれるようになり、今までにない新たな一面が見られるようになっていきます。



作業室Aでの取り組み



工房の建物や敷地内、宮ヶ瀬湖水の郷商店街にある和カフェ“絆”での清掃活動を定期的に行なっています。まだまだ形になっていないところはありませんが、利用者のみなさんの大切な活動の場として確立していきたいと思っています。



清掃活動

ブルーベリー畑



家族会後援会が所有しているブルーベリー畑まで行き、草取りやブルーベリー摘みを行なっています。夏場は炎天下での作業になりますが、利用者のみなさんは率先して取り組んでくれます。ちょっとしたドライブ感覚で楽しんでいる方もいます！



利用者同士のつながり



現在は、集団で散歩へ行ったり、複数の利用者でラジオ体操などの体を動かす活動を行ったりしています。職員と手をつなぐことに対して拒否があっても、利用者同士であるとスムーズに手をつなぎ活動できたり、個別の散歩では色々なものが気になり立ち止まりが多かった方も、集団で散歩を行なうとペース良く歩くことができたりと、利用者同士で何か感じ合うものがあるのかなと気づきました。今後も、このような良い関係が築ける場を見つけていきたいと思っています。



各作業室には、共有の休憩スペースを設けています。同じ空間で、他者を意識しながら、それぞれ好きな過ごし方をしています。とても良い空間で、見ている私たちもゆったりとした気持ちになります。



身体機能維持・改善への取り組み



加齢によるものや、コロナ禍による活動自粛により、体を動かす機会が減ったことで、円背や足腰の痛みなどの症状が見られている利用者もいます。このような中でも、状態が少しでも改善されるよう、日中活動内で利用者に合わせて活動を楽しめるよう試行錯誤しています。ただ座るだけでも、座り方や椅子の硬さ、高さによって体の使い方は変わります。日常の当たり前の動作一つ一つの大切さを感じています。



点から線に…

散歩、清掃、草取り、運動…。毎日の活動一つ一つが、今は小さな点ですが、積み重ねることで線となり、いずれ大きな輪となっていくと確信しています。

利用者にとって、それぞれの経験がこれからの人生の糧となっていけばと思います。また、利用者同士の関係の中で、職員が支援するだけでは得られない気づきや学びがあることを痛感させられます。ただ「支援する側」と「支援される側」、「利用者」と「支援者」という枠組みの中でお互いをとらえるのではなく、一人の人間同士として関係を築いていくことができれば、お互いに、思いがけない喜びや充実感を発見できるのだと感じています。活動と活動とのつながり、人と人とのつながり、思いと想いのつながりを重ねていくことでどんな青写真が浮かび上がるか、毎日が楽しみです。

サツマイモ掘りの活動を通して～新しい取り組みへ～



今年度は、コロナの影響で利用者の皆さんの活動機会が何かと制限せざるを得ない状況が続いています。この状況下での活動の工夫と新たな取り組みを職員も思案に暮れていました。

そんな中、昨年の第二やまびこ工房に続き、家族会後援会の畑で育ったサツマイモの収穫にやまびこ工房（以下工房）で参加させて頂くことになりました。

畑は工房から車で10分程のところにあります。ブルーベリーの栽培もしており、ジャム作りや地域の方に販売もしています。

秋の晴天の日、午前午後のチームに分かれて、感染症対策を考慮し少人数で出かけています。サツマイモの葉を除けてツルを刈り、スコップで掘り起こした土からサツマイモが少し顔を出すと、皆さんとても上手に掘ってカゴに収穫していました。ほとんどのサツマイモが傷つかずに掘ることが出来、皆さんの掘る力の加減や丁寧さに驚きました。収穫したサツマイモを大きさや色などを種類ごとに選別しました。慣れた手さばきで選別を終えた後はサツマイモをキレイに水洗いします。「キレイ」という線引きは明確なものではないので、分かりにくさがあったかもしれませんが、職員と一緒に取り組むことでお互いに出来栄を確認しながら丁寧に行うことが出来ました。

収穫したサツマイモは試作のお菓子作りの材料や工房の昼食で大学芋として皆さんで召し上がっています。素材の甘みもしっかりとしていて、とても美味しく頂くことが出来ました。

それぞれの工程でメンバーを分け、内容や組み合わせを工夫することにより一人一人が力を発揮する姿が見られました。また、職員と利用者が一つの活動と一緒に取り組んだことは、職員としても新鮮で充実した時間になりました。これからも自粛ムードを乗り越え、新たな視点や経験で充実した時間を創っていきたいと思います。

家族会後援会、ワーカーズキュービック相模原の皆様、ご協力ありがとうございました。



ナウシカ便り～切り替えの達人～

昨年は、今までにない“自粛”の日々の中での暮らしとなりました。ナウシカに入居されている皆さんも楽しみにしていた外出活動が中止になることが続き、当初、スタッフ一同頭を抱えてしまいました。しかし、そんな中でこそ、皆さんの特性が発揮されています。

それは、合理主義。皆さん一定のパターンでの過ごし方を希望されることが多いですが、一旦、決定事項として理解されるとサッパリと新しいパターンへ移行されます。ナウシカでも同様の様子が見られ、私も驚いてしまいました。先の見通しをもつことが得意でない自閉症の方だからこそ、一度理解ができれば、そちらの事実の方が優先されるのかもしれませんが、皆さんならではの処世術なのかもしれないと思いました。

今では、2021年はどうなるのかとの確認が一つ一つ細かく聞かれている毎日です。

ナウシカでは、不定期のお楽しみとして、夕食の時間を使い、鍋や鉄板焼きを行ってきました。今後の取り組みとして、個別の外出の代わりにする内容も検討中です。

今年も皆さんと健康で楽しみのある充実した暮らしをつくってまいりたいと思います。(野田)

カラフル便り

昨年はコロナの影響でこれまでの生活スタイルが大きく変化した1年でした。感染症対策の為、カラフルの皆さんも外出活動や買い物などを自粛しなければいけなくなってしまいました。

そこで皆さんの活動が制限され楽しみが減ってしまった分、カラフル内でなにか楽しいことができないかとスタッフ一同検討し行いました。植物を育てようとの案から玄関にプランターを設置しナスや菊などを育てました。育ったナスは皆さんの食事に振舞われました。季節の行事にも今まで以上に力を入れました。節分にはスタッフが鬼の仮面をかぶり皆さんと一緒に豆をまき、七夕は短冊飾りに願い事、クリスマスにはツリーやバルーンでカラフルに飾りつけ、クリスマスリースも作りました。当初は初めて行うこともあり楽しんでくれるかな？と不安になることもありましたが、スタッフが活動に誘うと「やる！」と喜んでくれたことで、今では皆さん以上にスタッフが次は何をやるかと楽しんでます。

今年は昨年以上に楽しみと笑顔に溢れた1年になるようスタッフ一同支援していきたいと思います。

(田辺)



後援会のページ



令和3年の年明けを迎えましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。年が改まってでも新型コロナウイルス感染の不安を抱えたままですので、「明けましておめでとうございます」とは言いにくいのが実情ではないでしょうか。

私にとって昨年は時の経つのがことのほか早かった様に感じています。それは旅行や親しい友人との会食などの楽しみを制限され、不安と緊張が強られるメリハリの無い日々が続いているためでしょうか。私の様な高齢者にとっては貴重な一年を損した気分です。とは言えコロナ禍で職を失って困窮している方や休みも無く医療機関で奮闘されている医療従事者の方のことを思えば贅沢は言えません。

ワクチンの開発がニュースで取り上げられていますが、日本で注射が受けられるには未だ時間が掛かる様です。幸い工場の職員の方々や利用者及びそのご家族には未だ感染者が出ていません。改めて関係者のご努力に敬意を表します。これからも気が緩むこと無く日々を過ごして行きましょう。

それは自分のみならず、家族や近しい人達の命を守る為の責任だと思えます。そうすれば今年の春を迎える頃には多少のリスクは残るにしても、子供達がまあまあ安心して外出でき、皆が幾分明るく暮らせる様になっているのではと期待しています。

風の谷後援会会長 堀田脩司

令和2年9月1日～令和2年11月30日現在（敬称略）

【更新個人】

(相模原市) 川島和章 三田二三夫 内田まゆみ 村田薫 堀田脩司 高橋ユキ江 古澤倫子
山口彰一 山崎テル代 茂川仁 (座間市) 田口賢二 上城洋一 (厚木市) 藤野孝夫 藤野喜友
(海老名市) 鶴田佳子 有路富夫 (町田市) 上城敏明 (川崎市) 上野悟 (逗子市) 北村恵子
(所沢市) 下田浄 (世田谷区) 下田武 (杉並区) 中村絵美子 (国分寺市) 岩崎秀二
(北九州市) 上城和子 (盛岡市) 源新和子

【ご寄付・ご協力】

木下謙三 宮田勇 新宿自治会 振興自治会 新宿小学校 (有) 伸和トラスト
ワーカーズキュービック相模原
その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

【お詫びと訂正】

令和2年度広報の秋号にて、萩原常寿様のお名前を誤って萩原常寿と記載しておりました。萩原様、関係者の皆様、大変失礼いたしました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

＜お問い合わせ先＞

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345